

令和7年度

地域づくり活動応事業援

実績報告集

(高校生枠・チャレンジ事業枠)



兵庫県西播磨県民局

# 目 次

(事業名)	(実施団体)	
チャレンジ事業枠		
【ふるさと意識醸成事業】		
1 生物多様性龍高プラン 地域の自然環境と生きものの保全活動	兵庫県立龍野高等学校	・・・1 頁
【脱炭素社会推進事業】		
2 地場産業の活性化と脱炭素社会推進事業	兵庫県立龍野北高等学校（全日制）	・・・7 頁
3 Rable(らぶる) II	兵庫県立大学附属高等学校自然科学部	・・・9 頁
高校生枠		
4 未来の環境へ繋ぐ「西播磨のいきもの大調査」II	兵庫県立大学附属高等学校自然科学部	・・・12 頁
5 相高地域貢献・魅力発信事業	兵庫県立相生高等学校	・・・15 頁
6 赤穂高校ふれあい活動	兵庫県立赤穂高等学校調理部	・・・17 頁
7 上郡町コミュニティデザインプロジェクト	兵庫県立上郡高等学校	・・・19 頁
8 佐用えがお活性化プロジェクト	兵庫県立佐用高等学校家政科	・・・22 頁
9 伊和校生 発酵のふるさとPR事業	兵庫県立伊和高等学校	・・・26 頁
10 ちくさ地域力UPプロジェクト	兵庫県立千種高等学校	・・・28 頁
11 高校生の店 龍北工房	高校生の店 龍北工房 【兵庫県立龍野北高等学校（定時制）】	・・・30 頁
12 地域をつなぐ相産定時制	兵庫県立相生産業高等学校（定時制）	・・・34 頁



(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名：生物多様性龍高プラン 地域の自然環境と生きものの保全活動

団体名：＜ 兵庫県立龍野高等学校 ＞

所在：兵庫県たつの市龍野町日山 554

代表：駒田 勝

目的	<p>〔地域の現状〕 全国的に生物多様性の衰退が著しい。特に西播磨の場合シカの食害により、林床の植物群落が消滅し、ため池ではアメリカザリガニの分布の拡大により水生植物群落が失われている。また、電子ゲームの普及により里山や河川で生きものを採集して遊ぶ子どもが減少するなど、自然離れが加速している。</p> <p>〔地域の課題〕 播磨の自然を後世に残すためには、地域の自然や生きものについて啓発的な活動とともに保全活動が必要不可欠である。しかし、自然の中で遊ぶ子どもたちがいなくなれば、故郷の自然や生きものを愛する心を育む機会を失うことになる。将来的に地域の自然を保全する人材が育たない。 また、地域の高齢化は空き家や独居老人の増加につながり、土地の管理不足による景観上の問題点だけでなく、防犯上も問題が生じる。また、植栽した植物がシカの食害にあうことも少なくない。</p> <p>〔解決方法〕 龍野高校自然科学部生物班・授業課題研究生物多様性班が、地域の自然や生きものをテーマとした研究活動等をおこない、児童・生徒による環境保全活動のモデル事業となれるように尽力する。 地域の管理放棄地の緑化に適した植物の選定をめざし、少雨の瀬戸内海性気候に適応しやすい草花および、シカの食害に強い植物やシカの食べない植物を活用した、シカの忌避剤の開発を目指す。</p>
事業内容	<p>高校生が主体となった生物多様性の保全活動 まもる活動 地域の希少植物群落の保全活動：サギソウ・ヒシモドキ・ササユリ等 生息域外保全：ヒシモドキ・フジバカマ・オチフジ・オキナグサ等 しらべる活動 地域の希少植物生育地の現状 ヒシモドキ・サギソウ・オニバス等 増殖方法の研究：ラン科植物の無菌培養技術の開発 対策方法の研究：自生地で簡易防獣柵の効果の検証 シカの食害に強い、植物を調べる つたえる活動 研究発表会 全国ユース環境保全活動発表会近畿大会など 科学イベント 科学の祭典・科学の屋台村 わくわく実験教室 地域行事 たつの市民まつり つながる活動 行政・地域住民・他の自然保護団体・博物館や植物園の専門家</p>
地域	たつの市を中心とした西播磨

事業の 効果	<p>「生物多様性龍高プラン」は児童・生徒による地域の生物多様性保全活動のモデル事業になるようにとりくんできた。昨年3月に改訂された「生物多様性ひょうご戦略」でも、「基本戦略Ⅲ 生物多様性を支える人材育成の推進」の事例として紹介されている。</p> <p>活動内容については、研究発表会などいろいろな機会に公開し、環境教育の事例として全国へ広がってくれることを願っている。今年度は、「サイエンスキャスルジャパン」で発表した内容が、主催者からアジアの国々でも、貢献できる技術であると評価していただき、マレーシアで開催されたアジア大会に招待され、英語で発表することができた。</p> <p>今年の新たな地域の学校連携として、たつの市の絶滅危惧種ヒシモドキを龍野西中学生徒とともに龍野西中学校にあるビオトープに移植し生息域外保全を開始した。</p> <p>ひょうご里山・里海国際フォーラム 高校生によるポスターセッション 9/28  場所 県立兵庫津ミュージアム  主催 兵庫県、ひょうご環境創造協会地球環境戦略研究機関ほか  「簡単無菌培養技術の開発」 優秀賞</p> <p>Science Castle Asia 2025 (中学・高校生のための学会アジア大会) 10/18~19  場所 Malaysia Multimedia University  主催 Leave a Nest Malaysia Sdn. Bhd.  「Improvement of low-cost sterile culture technology for use in developing countries」  「発展途上国でも導入可能な、安価な無菌培養システムの開発」</p> <p>第49回兵庫県高等学校総合文化祭自然科学部門 11/7~9  場所 神戸青少年科学館  「湧水湿地の植生管理方法の検証」 口頭発表 奨励賞</p> <p>高校生・私の科学研究発表会 2025 11/30  場所 神戸大学百年記念館  主催 神戸大学サイエンスショップ・兵庫県生物学会  「湧水湿地の植生管理方法の検証」  口頭発表(生物分野) 兵庫県生物学会会長賞 (生物分野1位)</p> <p>「令和7年度 環境教育・ESD実践動画100選」に認定 12/7  主催 環境省  動画 <a href="https://policies.env.go.jp/policy/eco/jissendoga/kokai/">https://policies.env.go.jp/policy/eco/jissendoga/kokai/</a></p> <p>第3回西播磨ビジネスプランコンテスト 決勝大会 12/20  場所 先端科学技術支援センター  主催 西播磨ビジコン・ビジマッチ実行委員会(西播磨県民局県民躍動室内)  「わくわく実験教室 宅配便」 学生アイデア部門(中高生の部) 優秀賞</p> <p>第11回全国ユース環境活動発表大会近畿地方大会 12/21  場所 大阪国際会議場  主催 環境省/独立行政法人環境再生保全機構など  「生物多様性龍高プラン」 口頭発表 審査員特別賞(3位)</p>
-----------	---

	月日	場 所	事 業 内 容	参加者数	生徒数
4月	4/13	アクリエ姫路	第1回ひょうご科学塾	500人	7人
5月	5/5	有年中学	オキナグサの現状調査		12人
6月	6/1	姫路福泊海岸	人工海浜 植生調査	50人程度	7人
7月	7/19・20 7/27 7/31	姫路科学館 たつの市 龍野高校	桜山公園まつり科学の屋台村 サギソウ自生地の調査 小学生のためのわくわく実験教室	多数  160人程度	15人 6人 15人
8月	8/2 8/9・10	太子町総合公園 県立大工学部	ヒシモドキなどの生息域外保全  青少年のための科学の祭典	 多数	5人 10人
9月	9/6 9/20 9/28	たつの市 龍野西中学 兵庫津ミュージアム	サギソウ自生地の人工交配 ビオトープにヒシモドキを移植 ひょうご里山・里海国際フォーラム	2人 不明	6人 3人 13人
10月	10/4 10/4	龍野高校 龍野高校	中学生からできる課題研究 ひとはく地域連携セミナー	3人 20人程度	8人 8人
11月	11/3 11/7~9	たつの市 神戸青少年科学館	たつの市民まつり（展示発表） 兵庫県高等学校総合文化祭自然科学部門 研究発表会	不明	3人
11月	11/16 11/30	社町 神戸大学	環境 DNA 実験用外来生物採集高校生・私の科学研究発表会	不明 80人程度	10人 7人
12月	12/20 12/21 12/21	先端科学技術支援センター 姫路科学館 大阪国際会議場	第3回西播磨ビジネスプランコンテスト はりまユース研究発表交流会 第11回全国ユース環境活動発表会 近畿地方大会	70人程度 不明 90人程度	6人 7人 4人
1月	1/25	ポートアイランド 4か所	サイエンスフェア in 兵庫	不明	13人
2月	2/7	龍野高校	生徒研究発表会	不明	15人
以下予定	2/11	人と自然の博物館	共生のひろば 研究発表会		
	3月予定	たつの市	サギソウ自生地の草刈り		
	3月予定	たつの市	オオツルコウジ自生地の外来植物の駆除		



4/13 第1回ひょうご科学塾  
アクリエ姫路



5/5 オキナグサの個体数調査  
有年中学校



6/1 人工海浜合同植生調査  
姫路市的形町福泊



7/22 ヒシモドキの生息域外保全  
太子町総合公園柳池



7/19・20 桜山公園祭 科学の屋台村  
姫路科学館



7/27 湧水湿地の植生調査  
たつの市



7/31 わくわく実験教室  
龍野高校



9/6 サギソウの人工交配  
たつの市



9/20 ヒシモドキの生息域外保全  
龍野西中学ビオトープ



9/28 ひょうご里山・里海国際フォーラム  
兵庫津ミュージアム



11/16 環境 DNA 実験資 試料採集  
社町



11/9 高等学校総合文化祭  
自然科学部門 神戸青少年科学館



11/30 高校生・わたしの科学研究発表会  
神戸大学百年記念館



12/20 西はりまビジネスプランコンテスト決勝大会 先端科学技術支援センター



12/21 全国ユース環境活動 近畿地方大会 (大阪国際会議場)



10/18・19 サイエンスキャッスルアジア大会 (マレーシア)

協働の相手方	絶滅危惧種自生地の土地管理者 野外作業の許可など 県立人と自然の博物館・姫路市立手柄山温室植物園 講師派遣・指導助言など たつの市環境課 自然環境会議など 太子町まちづくり課 総合公園柳池の利用許可など たつの市立龍野西中学校 中学校ビオトープでのヒシモドキの生息域外保全
今後の展望	従来の自生地の保全活動・生息域外保全、増殖技術の開発、絶滅危惧種の環境教育教材化、子どもたちに自然や生きもの興味関心を育むための実験観察イベント、地域住民への生物多様性に関する啓発活動は継続する。  「生物多様性ひょうご戦略」改訂版 を参考に活動を継続する 「ひょうご花緑創造プラン」改訂にむけて、地域の環境に適応力の高い植物の調査特に高温・乾燥・貧栄養・シカの食害に強い、ガーデニングに活用できる植物の選定と試作 また増殖技術の開発 西播磨の特色ある自然環境を学ぶ題材として、兵庫県 RD Aランクのヒシモドキの環境教育への活用方法を研究する。

詳しい活動内容や研究成果は龍野高校 HP の「自然科学部」や「生物多様性龍高プラン」をご覧ください。



龍高自然科学部



生物多様性龍高プラン



環境省動画 100 選



総合公園の植物図鑑



生物班研究成果

【参考】

環境省「環境教育・ESD 実践動画 100 選」

学校教育部門 2025 生物多様性龍高プラン

学校教育部門 2023 赤とんぼ復活プロジェクト

<https://policies.env.go.jp/policy/eco/jissendoga/kokai/>



第 10 回全国ユース環境活動発表大会近畿地方大会（2024 年 12 月 1 日開催）の発表動画が 6 月に公開されました。発表順は 1 番で動画の 3 分～13 分あたりです。

[https://www.erca.go.jp/jfge/youth/topics/20250210/05\\_kinki.html](https://www.erca.go.jp/jfge/youth/topics/20250210/05_kinki.html)

自然科学部生物班は昨年「先生が選ぶ特別賞」今年「審査員特別賞」を授賞しました。



(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名： 地場産業の活性化と脱炭素社会推進事業

団体名： <兵庫県立龍野北高等学校>

所在：たつの市新宮町芝田 125-2

代表：福田 孝善

目的	地域の地場産業である皮革に関する体験ができる機会が少ないため、地場産業の皮革を使った焼きコテアート体験を行う。地場産業の皮革産業を身近なものとして多くの方に知ってもらい、地域の活性化につなげる。 脱炭素社会推進のための啓発ポスターを制作・展示を行い、広く環境負荷の低減に向けた環境保全のための意識づけを行う。				
事業内容	様々な行事において皮革を使った焼きコテアート体験を行い、皮革の魅力をPRし、皮革産業への関心を高める。 脱炭素社会推進に向けた啓発ポスターを龍野北高校総合デザイン科の生徒が制作し、西播磨総合リハビリテーションセンター内の作品展示用ギャラリー、本校の文化祭、たつの市景観形成地区内で行っている町ちゅう美術館で作品を展示する				
地域	たつの市				
事業の効果	本校文化祭や町ちゅう美術館において焼きコテアート体験を行うことで高校生や保護者、地域の方々に皮革を身近に感じてもらうことができた。 脱炭素社会の推進を目的に啓発ポスターを制作したことで、生徒自身の環境問題への関心と意識が高まった。また、作品を文化祭や町ちゅう美術館で展示したことにより、来場者に対しても脱炭素への理解と意識づけを促す機会となった。				
	日付	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
事業経過	5月～7月	本校実習室	脱炭素社会推進に向けた啓発ポスターの作成		18
	7月	本校実習室	ポスターの印刷		18
	8月	西播磨総合リハビリテーションセンター	脱炭素社会推進に向けた啓発ポスターの展示		18
	8月～9月	本校実習室	抜き型用皮革の制作		20
	11月	本校文化祭	各ポスターの展示	500	20
	11月	本校文化祭	焼きコテアート体験	100	20
	2月	町ちゅう美術館	各ポスターの展示	400	18
	2月	町ちゅう美術館	焼きコテアート体験	110	20

脱炭素社会推進に向けた啓発ポスター制作（6月）



西はりまりハビリテーションセンターでの展示（8月）



本校文化祭での焼きコテアート体験・脱炭素社会推進に向けた啓発ポスター展示の様子（11月）



町ぢゅう美術館での焼きコテアート体験・脱炭素社会推進に向けた啓発ポスター展示の様子（2月）



協働の相手方	西はりまりハビリテーションセンター
今後の展望	<p>今後も西播磨リハビリテーションセンターでの展示機会を継続的にいただきながら、地域の魅力発信と本校生徒作品のPRを進めていきたい。また、生徒の課題内容を工夫し、環境問題への理解も進むよう取り組みたい。</p> <p>皮革をより身近に感じてもらえるよう体験の機会や展示の場を増やし、多くの方に地場産業の魅力を知ってもらうことで、地域の活性化につなげていきたい。</p>

(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名： らぶる Rable II

団体名： < 兵庫県立大学附属高等学校 自然科学部 >

所在： 赤穂郡上郡町光都3丁目11番1号

代表： 足立 幸謙

目的	自然環境保全や地球温暖化等の環境問題への関心を高め、地域とのつながりを深める活動に、ビーチクリーンやアップサイクルを通して取り組む。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ビーチクリーン活動や学校周辺でのゴミひろい活動に参加する。</li><li>・プラスチックゴミや昆虫標本の傷物や余り物をアップサイクルしてアクセサリ類やキーホルダー類を作製する。</li><li>・青少年のための科学の祭典姫路会場や科学の屋台村などで発表したり、地域のイベント等で啓発活動を行う。</li><li>・各種発表会に参加し、アップサイクルが地球温暖化や環境問題の解決の一助になることを伝える。</li><li>・アクセサリ作り以外のアップサイクルを考える。</li></ul>				
地域	光都を中心とした西播磨地方				
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒達がアップサイクルやブルーカーボン、ゴミなどの環境問題に興味をもち、それらの解決に向けて積極的に行動し発表できた。</li><li>・山から海への繋がりを身近に感じることで西播磨ならではの活動を行うことにより、環境を守る大切さを知ることができた。</li><li>・身近な行動から、地球温暖化問題など大きな課題の解決へつながる第一歩となるという意識を広められた。</li><li>・拾ったゴミ等を使ってアクセサリを作り、イベントやワークショップで紹介・販売し、環境問題について考えてもらえた。</li></ul>				
	日付	場所	事業内容	参加者数	生徒数
事業経過	5/15 木, 5/16 金	本校	文化祭 プラスチックごみと植物や昆虫等アクセサリ展示・販売	多数	5
	5/23 金	本校周辺	学校近くの沢でのゴミ拾い	—	12
	6/1 日	姫路市的形町福泊海岸	海浜公園の植生調査 砂浜のゴミの調査	約 50	4
	6/12 木～ 7/2 水	光都 オプトピア	活動紹介等のポスター展示 10 枚	—	0
	7/12 土	たつの市新舞子海岸	たつの新舞子ビーチクリーン大会	約 150	12
	7/19 土, 7/20 日	姫路科学館	科学の屋台村	多数	7
	7 月以降	本校	アクセサリ類の作製	—	12
	7/28 月	本校周辺	学校近くの沢でのゴミ拾い 2 回目	—	12
	8/8 金	インテックス大阪	日経 SYEAM シンポジウム 探究ポスター発表アイデアの泉	多数	6
	8/9 土, 8/10 日	県立大学姫路工学キャンパス	青少年のための科学の祭典姫路会場	多数	6

8/21 木, 8/22 金	愛媛県松山市	SDGs 甲子園本選発表会 3位入賞	約 100	5
9/28 日	県立兵庫津ミュージアム	ひょうご里山・里海国際フォーラム ポスターセッション	約 100	2
10/25 土	光都芝生広場	西播磨フロンティア祭 アクセサリ類の販売	多数	12
11/9 日	バンドー神戸青少年科学館	兵庫県高等学校総合文化祭自然科学部門発表会 ポスター発表	多数	2
R8/1/27 火	本校	2年FS コース課題研究発表会	約 100	14
R8/2/14 土	光都芝生広場	光都てくてくマーケット アクセサリ類の販売	約 40	5
3/21 土	西播磨総合庁舎	西播磨ビジョンフォーラム		1



5/23 学校近くの沢へ行き、ゴミを拾った。



7/12 たつの新舞子ビーチクリーン大会



7/19 科学の屋台村



7/20 科学の屋台村



7/28 学校近くの沢へ行き、多くのゴミを見つけ、一部を回収した。



8/8 日経 SYEAM シンポジウム  
探究ポスター発表アイデアの泉



8/21 SDGs 甲子園本選発表会



8/22 SDGs 甲子園本選 3 位入賞



9/27 チョウの翅のキーホルダー



9/28 ひょうご里山里海国際フォーラム



10/25 西播磨フロンティア祭  
アクセサリ類の販売



R8/2/14 てくてくマーケット  
アクセサリ・キーホルダー類の販売

協働の相手方	兵庫県生物学会西播支部 播磨科学公園都市 PR 館オプトピア たつの市 姫路科学館 日本経済新聞社大阪本社 (公財)ひょうご科学技術協会 NPO 法人 RES (公財)ひょうご環境創造協会 西播磨フロンティア祭実行委員会 兵庫県高等学校文化連盟自然科学部門 光都てくてくマーケット実行委員会
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な行動から、地球温暖化問題など大きな課題の解決へつながる第一歩となるという意識を広げることができる。</li> <li>高校生が良きロールモデルとなり、環境保全活動をイメージしやすくすることで、現在の小学生が中学や高校に進んだときに活動する意欲を引き出せる。こうした活動に参加した子供たちが、将来活動の運営側へ参加し、さらに次の世代へと継承していくことが期待できる。</li> </ul>

(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名： 未来の環境へ繋ぐ「西播磨のいきもの大調査」Ⅱ

団体名： < 兵庫県立大学附属高等学校 自然科学部 >

所在：赤穂郡上郡町光都3丁目11番1号

代表：足立 幸謙

目的	環境問題や生き物への関心を高め、地域とのつながりを深める活動に、自然環境や生物の調査・保全を通して取り組む。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校周辺を中心に西播磨の自然環境や生物を調査する。</li><li>・生物を観察し、主にスマートフォンを使って記録する。</li><li>・生き物や自然環境に触れる機会を増やし、それらについての知識を増す。</li><li>・調査結果や作製した標本を、青少年のための科学の祭典姫路会場や科学の屋台村などで発表し、生物や自然環境への興味・関心を高める。</li><li>・カメムシなどの農業害虫や資源として利用できる生物を調査し、生き物にかかわる課題を明らかにする。</li><li>・野菜を育て、一部は本校文化祭で販売する。シカの食害を調べる。</li><li>・絶滅危惧種の継続的な観察や調査、希少植物の保全を行う。</li><li>・啓発活動のための教材や標本作製する。</li><li>・プロピレングリコール液浸標本、エタノール液浸標本、透明レジンプラスチック標本作製する。</li></ul>				
地域	光都を中心とした西播磨地方				
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・生き物や自然環境をテーマにした課題研究に積極的に関わることができた。</li><li>・山から海への繋がりを身近に感じることで西播磨ならではの環境教育を行うことにより、環境を守る大切さを知ることができた。</li><li>・高校生が良きロールモデルとなり、環境保全活動をイメージしやすくすることで、現在の小学生が中学や高校に進んだときに活動する意欲を引き出した。</li><li>・生物の観察・調査・撮影・採集・飼育・栽培などの生き物にかかわる技術を受け継ぎ、生物や自然環境に対する興味・関心を高めることができる。</li></ul>				
	日付	場所	事業内容	参加者数	生徒数
事業経過	通年	ひょうご環境体験館	活動紹介等のポスター展示	—	—
	通年	本校	希少植物の域外保全	—	6
	通年	本校周辺	昆虫を中心とした生物調査 トレイルカメラによる野生動物調査	—	9
	5/15 木, 5/16 金	本校	文化祭 植物や昆虫等の展示・販売	多数	8
	5/23 金	本校周辺	沢の生物調査	—	3
	6/1 日	姫路市的形町 福泊海岸	海浜公園の植生調査	約 50	4
	6/12 木～ 7/2 水	光都 オプトピア	活動紹介等のポスター展示 10 枚	—	0
	7/19 土, 7/20 日	姫路科学館	科学の屋台村	多数	7
7/28 月	本校周辺	沢の生物調査	—	4	

8/9 土, 8/10 日	県立大学姫路工 学キャンパス	青少年のための科学の祭典姫路会 場	多数	6
8/23 土	本校	オープンハイスクール ポスター展示、活動紹介	多数	2
10/25 土	光都芝生広場	西播磨フロンティア祭	多数	5
11/9 日	バンドー神戸 青少年科学館	兵庫県高等学校総合文化祭自然科 学部門発表会 ポスター発表	約 400	3
1/27 火	本校	2年 FS コース課題研究発表会	約 100	14
3/21 土	西播磨総合庁舎	西播磨ビジョンフォーラム		1



5/23 学校近くの沢で水生生物の調査を行った。



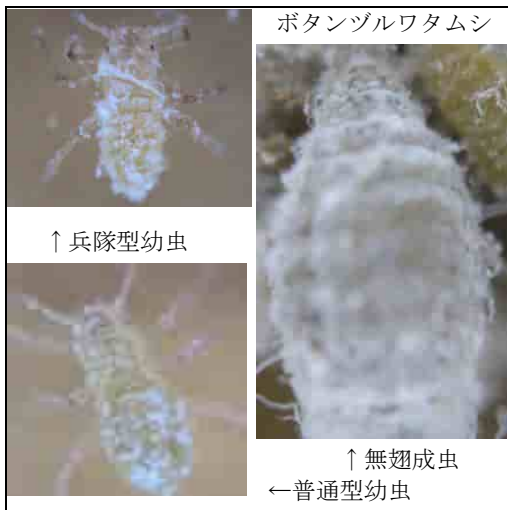
5/23 水生昆虫やナガレホトケドジョウを採取・調査した。



7/19 科学の屋台村 オジギソウに触って観察してもらった。



7/20 科学の屋台村 生物標本の展示・説明を行った。





8/10 青少年のための科学の祭典  
生物標本の展示・説明を行い、オジギソウに触って観察してもらった。



10/25 西播磨フロンティア祭



11/9 兵庫県高等学校総合文化祭自然科学部門発表会ポスター発表優秀賞  
西播磨地方のアブラムシ観察記録

協働の相手方	ひょうご環境体験館 兵庫県生物学会西播支部 姫路科学館 播磨科学公園都市 PR 館オプトピア (公財)ひょうご科学技術協会 西播磨フロンティア祭実行委員会 兵庫県高等学校文化連盟自然科学部門
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に参加した子供たちが、中高生になり活動の運営側へ参加し、また次の世代に継承していく。</li> <li>・西播磨の自然の中にどのような生物資源があるのかを見つけ、その利用法をさらに考えていく。</li> <li>・イベントを開催することで、地域の人や子供たちの交流の場を作ることができる。</li> <li>・生徒の生物や自然環境に対する興味・関心を高めることで、今後も活動に参加する生徒が現れる。</li> </ul>

(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名： 相高地域貢献・魅力発信事業

団体名： < 県立相生高等学校 >

所在：相生市山手1丁目722-10

代表：校長 土井 寛文

目的	本校のある相生市は、かつての花形であった造船業の栄えた港町である。造船業の後退により人口は激減し、現在も人口減少の歯止めをかけるために、様々な事業を展開している。歴史に目を向けると、播磨第二の大荘園「矢野荘」があり、荘園がまるまるそのまま地方公共団体になった数少ない例の一つである。京都の有名な東寺の所有した荘園でもあり、荘園研究の一級資料である「東寺百合文書」が残存し、史料も豊富に残っている。そのため、相生の歴史を学ぶことにより、ふるさとの魅力を再発見し、ふるさと相生の活性化につなげていきたい。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域の行事に積極的に参加し、地域住民とのふれあいや交流等、地域貢献を図る。</li><li>・相生歴史巡検を実施し、ふるさとの歴史を学び、魅力を再発見することにより、ふるさと相生の歴史的魅力をクリアファイルや学校HPでの歴史巡検資料の制作により、市民やふるさと相生の活性化につなげていく。</li><li>・学校行事（文化祭、体育大会、公開授業など）を地域に情報発信することで、開かれた学校、信頼される学校づくりを推進し、学校文化の広がりや地域の教育文化の拠点としての役割を担う協働実践を図る。</li></ul>				
地域	相生市				
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・本校の挨拶運動が、相生市の表彰を受けたり、相生のミニコミ誌に掲載されたり、地道に地元と連携して活動が続けられている。これを継続することにより、地元に愛される学校になることが期待できる。</li><li>・相生市教育委員会（相生市立歴史民俗資料館）との連携で、ふるさと相生の歴史を多面的に学ぶことができる。ふるさと相生の魅力を探究し、クリアファイルや学校HPの歴史巡検資料を制作して地域の人々に配布し、地域とのつながりの深化が期待できる。継続的に活動を実施し、相生市の観光資源へとつなげる懸け橋としていきたい。</li></ul>				
	日付	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
事業経過	毎月1回	相生駅前 (南北ローター)	さわやか挨拶運動 クリーン作戦	200名	8名
	5/28 11/12 1/21	学校から相生 駅周辺	通学路清掃	125名	11名
	11/3	相生市内	歴史巡検	5名	2名
	11/4～ 2/9	学校内	歴史巡検HP資料作成	12名	2名
	12/22～ 2/9	学校内	クリアファイル原案作成	12名	2名



9/12 さわやか挨拶運動  
爽やかな挨拶を心がけました。



5/28 通学路清掃  
感謝を込めて通学路を美しく！



11/3 歴史巡検  
地域の魅力を再発見しました！



1/9 クリアファイル制作  
地域の魅力を発信します。

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相生市教育委員会（相生市立歴史民俗資料館）</li> <li>・山手1丁目自治会</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前（南北）で実施する「さわやか挨拶運動」や「通学路清掃」を実施・継続することで、自治会や地元とも連携を深め、地域に親しまれ愛される学校になっていく。</li> <li>・ふるさと相生の歴史的魅力を再発見するために、相生歴史巡検のクリアファイルを制作してさまざまな機会配布を行う。また、学校HPの歴史巡検資料で魅力をアピールし、ふるさと相生の魅力発信に貢献する。</li> </ul>

(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名： 赤穂高校ふれあい活動

団体名： < 赤穂高等学校調理部 >

所在：兵庫県赤穂市海浜町 139 番

代表：菊川 泰

目的	地域の他世代の人とのふれあい活動を増やし地域について理解し愛着を持てる活を行う。赤穂市についての再認識、自分たちが普段何気なく見過ごしていたことを見つけて高校生活を楽しむ。赤穂市の特産物や伝統料理について学ぶ。次の子育て世代としての児童観の育成を図る。				
事業内容	(1) 赤穂の特産物を利用した新たなお菓子の製品化を目指し、お菓子作りを行った。 (2) しおや食堂・こども食堂パズルでお菓子製作のボランティア活動を行った。 (3) 教科「保育基礎」と「生活と福祉」選択生徒が製作した布絵本・縫いぐるみなどをあけぼの幼稚園と御崎保育所にプレゼントした。 (4) 赤穂市保健センター・いずみ会の方に1人暮らしの料理について学んだ。 (5) 赤穂東児童館・加里屋児童館にて夏祭りのボランティアを行った。 (6) 傘の布をリサイクルしたエコバック作り教室を、小学生対象に行った。 (7) あこう子ども食堂から提供された小麦粉を使ったお菓子を作り、子ども食堂に提供した。				
地域	赤穂市				
事業の効果	赤穂市保健センターの方を通じ、ボランティア団体いずみ会の方との交流を行い、異年齢の方との交流することにより、高校生に求められていることがわかり、コミュニケーション能力が高まる。こども食堂でのボランティアを通じてボランティア活動について学べ、地域のこどもやボランティア活動されている人とかかわることにより、成長できる。				
	日付	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
事業経過	通年	赤穂高校 こども食堂	こども食堂お菓子作り	70人	20人
	5~7月	赤穂高校	保育所・幼稚園へのプレゼント作り		24人
	6月	赤穂高校	文化祭にてお菓子の販売	多数	20人
	8月	赤穂東児童館 加里屋児童館 あけぼの幼稚園 御崎保育所 有年保育園	夏祭りボランティア	20人	15人
			夏祭りボランティア	40人	10人
			幼稚園児と交流・プレゼント	20人	6人
			保育園児と交流・プレゼント	20人	3人
	有年保育園	保育園児と交流・プレゼント	10人	1人	
11月	赤穂高校	いずみ会の方を講師に招き、一人暮らしのための料理講習会	25人	4人	
12月	義士祭会場	お菓子の販売	多数	11人	



8月あけぼの幼稚園児と交流



8月小学生対象エコバック作り



12月14日義士祭お菓子販売



12月17日こども食堂にお菓子提供

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

<p>協働の相手方</p>	<p>塩屋こども食堂 あけぼの幼稚園 赤穂東児童館</p>	<p>こども食堂パズル 御崎保育所 加里屋児童館</p>	<p>あこうこども食堂 有年保育所 赤穂市保健センター</p>
<p>今後の展望</p>	<p>今後も、市内の保育所・幼稚園との交流を定期的に行っていき、子どもたちや保護者の方とのかかわりを通して、生徒たちが地域貢献や、地域の方に学ぶ姿勢をもてるようにしていきたい。 今年度も、赤穂義士祭にてお菓子の販売を行うことができた。さらに赤穂の特産品を使用したお菓子の製作を調理部員全員が作れるように試作を重ねたい。特産物を使ったお菓子の開発を進め、赤穂の食文化について学び、伝統食の伝承や特産物の斬新な利用についてさらに研究していきたい。</p>		

(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名： 上郡町コミュニティデザインプロジェクト

団体名： < 兵庫県立上郡高等学校 >

所在：赤穂郡上郡町大持207番1

代表：武田 由哉

目的	上郡町が抱える諸課題（観光産業の活用、少子高齢化、特産品の知名度など）に伴う地域経済の衰退に対し、地元の高校生が町内諸機関と連携してイベントや特産品開発を主として地域活性化の一助を担う。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・上郡町内の地域イベントに参加し、ワークショップを通して地域活性化を狙う。</li><li>・上郡町の特産品であるぶどうを研究し、品質の向上を目指す。</li><li>・上郡町の資源を生かしたビジネスプランを考え、発信する。</li><li>・上郡町の住民との積極的な情報交換を通して、課題の発見、解決を目指す。</li></ul>				
地域	赤穂郡上郡町				
事業の効果	・高校生の目を見た地域の活性化について、将来構想を発信することで、町の関係機関、商業施設や産業への活性化の原動力となる。また、高校生自身は、この取組で自己有用感を味わえ、課題解決能力も身につく。さらに、今後各自が自分のふるさについて考え、行動する姿勢を身につけることができる。				
	日付	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
事業経過	5月～12月	上郡町内	上郡町住民ワークショップへの参加	10名	2名
	5月～12月	上郡高校	西播磨ビジネスプランコンテストへの応募	2名	1名
	5月～12月	上郡駅前	上郡イルミネーション点灯式でのワークショップの開催	12名	4名
	5月～12月	上郡高校	ぶどうジュースの新たな製造方法の研究	6名	1名
	9月～12月	上郡駅前	上郡イルミネーションの作製	12名	4名

住民ワークショップに参加①②  
(7月11日・8月4日)

上郡町主催の住民ワークショップに参加し、「上郡町の魅力と課題について」、「10年後の上郡町の姿を考えてみよう」というテーマで、校外の方々と意見交換を行いました。



上郡駅前でのワークショップ開催  
(11月21日)

駅前のイルミネーション点灯式にて、ワークショップを開催し、地域のイベントを盛り上げました。



西播磨ビジネスプランコンテストに  
応募

(10月22日)

上郡町の特産品の知名度アップを狙い、上郡の駅弁のアイデアを考案した。1次審査を通過し、オンラインでのブラッシュアップ面談を実施し、助言を受けましたが、2次審査で不合格となりました。



ぶどうジュースの研究

(12月13日)

上郡町特産のぶどうを利用した、ぶどうジュースを開発するための試作を行いました。



※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上郡町役場 企画広報課</li> <li>・ かみごおり観光協会</li> <li>・ 神姫バス株式会社 地域事業推進課</li> </ul>
今後の展望	<p>高校生の授業の一環で取り組む以上、時間と場所の制約がどうしても付きまとい、活動の幅が限られてしまう。今後は、高校の枠を越える工夫が必要になってくると感じた。また、それぞれの班の活動において、どうしても個々の動きになりがちなので、より連携を密にし協働することで、実現できる活動を増やすことが、地域活性化と高校生の成長のカギになる。</p>

(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名：佐用えがお活性化プロジェクト

団体名：＜ 兵庫県立佐用高等学校家政科 ＞

所在：佐用郡佐用町佐用260

代表：小倉 裕史

目的	<p>高校生のパワーで佐用町の笑顔を増やす！ 教科「家庭」の各分野について学習したことを地域の中で実践し、地域活性化を目指す。</p> <p>①ファッションショーや衣装製作を通して、地域の人々と交流できる機会を作り、高校生が幅広い年齢層の中心となって活動し、地域社会の活性化に貢献する。</p> <p>②佐用町と佐用高校家政科の研究活動を紹介するイベントやワークショップを企画し、佐用町内外の方々に佐用の魅力を発信する。</p> <p>③佐用町の特産品や伝統産業「皆田和紙」を用いた衣装や小物制作に取り組み、佐用高校オリジナルブランド「S. homic」の販売活動を行うことで佐用町のPR活動につなげるとともに地域の特産物、伝統産業の可能性を探り、生徒の様々な力を育む。</p>
事業内容	<p>上記の目的を達成するために、以下の活動を実施した。</p> <p>①地域交流ファッションショー ②イベント企画 ③特産品、伝統産業の発信</p>
地域	佐用町、兵庫県内

事業の 効果	<p>①地域交流ファッションショー 佐用中学校の4名にモデルを依頼し、衣装を製作し、さよう芸能発表会で「sayo collection2025」と題したファッションショーで共演した。モデル依頼、採寸、デザイン調査、衣装製作などの事前交流を行い、生徒自身が計画を立てて実行した。ファッションショーを軸に、地域の中学生と交流を深めて地域イベントを盛り上げ、地域貢献活動に繋げることができた。</p> <p>②イベント企画 味わいの里三日月で「高校生レストラン 2025 in三日月」を実施し、生徒の研究発表の場を作ることができた。イベントには町内外から約40名に会場いただき、家政科の取組や佐用町の良さを発信することができた。佐用の特産品や伝統産業の発信を継続することによって、周囲からの関心や期待も高まっている。また、皆田和紙の魅力を多くの人に広めるために皆田和紙ワークショップを企画し、佐用町南光ひまわり祭りや佐用小学校にて皆田和紙を用いたうちわ作りやお花マグネットなどの小物づくりを実施し、和紙の手触りや独特な色合いを実際に手に取って感じてもらうことができた。イベントを一から企画することで、生徒自身に大きな達成感があり、企画力やコミュニケーション能力の向上にも繋がった。</p> <p>③特産品・伝統産業の発信 佐用町の伝統産業である皆田和紙を使った衣装製作と商品開発に取り組み、イベントで発表・展示を行った。小物づくりの前に、皆田和紙を説明して普通紙との違いを触って感じてもらうことで皆田和紙への関心を高めることができた。説明するだけでなく、小物づくりを通して風合いや手触りの良さを実感してもらうことができた。</p> <p>上記の活動では、生徒の企画力・実践力を育むと共に、地域の方や継承活動を行っている方と交流することで地域理解が深まり、地域に愛着を持つことができた。</p>					
		日付	場 所	事 業 内 容	参加者数	スタッフ数
	事業 経過	6月	佐用高校	①衣装デザイン検討		
			佐用高校	②佐用高校文化祭にて「Sayo high school fair」実施		佐用高校生5名
7月		佐用中学校	①佐用中学校にて採寸、交流	佐用中学生モデル4名	佐用高校生6名	
		佐用高校	①衣装製作			
		ひまわりドーム	②③うちわづくりワークショップ	参加者11名	佐用高校生3名	
8月		佐用高校	②③うちわづくりワークショップ	中学生54名	佐用高校生10名	
10月		佐用中学校	①佐用中学校にて試着・修正、交流	佐用中学生モデル4名	佐用高校生6名	
11月		さよう文化情報センター	①さよう芸能発表会@「sayo collection2025」実施	佐用中学生モデル4名	佐用高校生23名	
		味わいの里三日月	②高校生レストラン@味わいの里三日月にて展示活動	お客様約40名	佐用高校生21名	
		佐用小学校	②③小物づくりワークショップ	佐用小学校30名	佐用高校生9名	
	神戸ハーバーランド	②③小物づくりワークショップ	参加者5名	佐用高校生2名		

(1) 地域交流ファッションショー

		
採寸 (7月7日@佐用中学校)	試着 (10月21日@佐用小学校)	製作過程
		
Sayo collection2025① (11月3日@さよう文化情報センター)	Sayo collection2025② (11月3日@さよう文化情報センター)	Sayo collection2025③ (11月3日@さよう文化情報センター)

(2) イベント企画

		
高校生レストラン① (11月5日@味わいの里三日月)	高校生レストラン② (11月5日@味わいの里三日月)	オープンハイスクール・うちわ作り (8月6日@佐用高校)

(3) 特産品・伝統産業の発信

		
うちわ作り (7月19日@ひまわりドーム)	お花マグネット作り (11月17日@佐用小学校)	お花マグネット作り (11月22日@神戸ハーバーランド)

協働の相手方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 皆田和紙保存会</li> <li>・ 佐用小学校</li> <li>・ 佐用中学校</li> <li>・ 元気工房さよう</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファッションショーにより一層工夫を凝らして地域と協働で作り上げる。</li> <li>・ イベントに参加し、皆田和紙や佐用高校の取組を発信することでPR活動を行っていく。</li> <li>・ オリジナルブランドの定着を図るため、開発した商品の作り方を記録に残し、改善や新商品の開発につなげる。</li> </ul>

(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名： 伊和高生 発酵のふるさとPR事業

団体名： < 兵庫県立伊和高等学校

>

所在：兵庫県宍粟市一宮町安積 616-2

代表：増田 百代

目的	宍粟市一宮・波賀地域では、住民の高齢化が進むとともに児童数も急激に減少し、小学校の統廃合が進められている。校区の拡大により、学校と地域とのつながりに変化が生じている。地域社会においては、核家族化や多様なライフスタイルの進展により、地域への愛着や連帯意識が希薄になると懸念されている。 本校生徒が地域の伝統や文化、産業に触れる機会を増やし、地域の活動等に参加し、地域住民や地元企業、商工会・自治会と連携し交流することで、地域の一員としての意識を高め、地域の活性化に貢献する人材育成を図る。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 宍粟の歴史と発酵、地域課題について学ぶ。</li><li>・ 発酵食品と宍粟特産物を用いた菓子類の商品開発。</li><li>・ 日本調理製菓専門学校に指導してもらいながらの調理実習。</li><li>・ 道の駅みなみ波賀への商品開発アイデア提案。</li><li>・ 宍粟の魅力をPRし、ふるさと活性化に貢献。</li><li>・ 道の駅みなみ波賀での販売実習。</li></ul>				
地域	宍粟市				
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ふるさとの伝統や文化、地域課題の解決に向けて関心が高まった。</li><li>・ ふるさと貢献の意識が醸成された。</li><li>・ 地域の担い手としての意識が高まった。</li><li>・ 関係機関と連携し、社会に繋がる実学を展開できた。</li><li>・ 地域全体で本校生徒を育てる契機となった。</li><li>・ 宍粟の魅力のPRとふるさと活性化に貢献できた。</li></ul>				
	日付	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
事業経過	6月5日(木)	本校教室	商品開発講座 (発酵・商品開発)	9名	4名
	6月26日(木)	本校調理室	調理実習① 宍粟おでん試作	9名	9名
	9月18日(木)	本校調理室	調理実習② 宍粟おでん改良	9名	7名
	10月9日(木)	本校調理室	調理実習③ 完成形試作・販売準備	9名	9名
	11月8日(土)	道の駅みなみ波賀	販売実習 宍粟おでん販売	8名	4名

6月5日(木) 商品開発講座



9月18日(木) 調理実習②



10月9日(木) 調理実習③



11月8日(土) 販売実習



※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本調理製菓専門学校</li> <li>・道の駅みなみ波賀</li> </ul>
今後の展望	<p>地元企業等と連携し、常時販売され地元に貢献できる商品の開発  ふるさと活性化に向けた地元と協働したイベント実施  Instagramなどを用いた、地元の魅力PR活動  授業時の体験活動(実学)の深化</p>

(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名： ちくさ地域力UPプロジェクト

団体名： < 兵庫県立千種高等学校 >

所在：〒671-3201 宍粟市千種町千草 727-2

代表：校長 細見 幸司

目的	<p>本校の所在地である宍粟市千種町は人口減少と少子高齢化が進行し、町内のこども園・小学校・中学校の児童生徒数も年々減少している。また、町内の商店街ではシャッターを下ろす商店が増えている状況である。宍粟市の千種市民局、商工会、自治会等がそれぞれ主体となって街の活性化に向け、様々なイベント等の取り組みを行っており、それらを結びつける組織である「ちくさええとこ協議会」が中心となって活動している。</p> <p>そこで、本校生が様々なイベントや街の行事等に参加し、地域の活性化に向けて寄与することで地域力UPにつなげることを目的として「地域交流」を大切にしてきた経緯がある。地域と生徒が連携する取組によって本校の魅力ある教育活動の定着と千種町の発展に繋がることをめざす。</p>				
(主な事業内容)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 地元事業所と連携した就業体験</li><li>・ 自治体主催行事における和太鼓の演奏</li><li>・ 地元事業所、地域住民や小中学生と連携した特別栽培米づくりと活用</li><li>・ 地域団体と連携した千種川の水生物および水温調査を実施</li><li>・ 地域行事におけるライフル競技の展示・体験、生徒会によるカフェ運営</li><li>・ 商業施設における米の販売</li><li>・ 園小中高ふれあい文化祭の実施</li></ul>				
地域	宍粟市、姫路市				
事業の効果	<p>本事業の取り組みの一つである「お米づくり」で収穫したお米は、今年度のお米甲子園等に応募した結果、惜しくも賞を逃したが、米の栽培法及び栽培時期の検討等を進めるなど、計画的な事業を展開できるようになっている。栽培した米を給食センターに寄贈し食育に活用したり、米粉を用いた米粉パンの研究や米粉のクッキー販売を通して、米の栽培、調理加工、製品販売を含む6次産業化の取組をさらに進めている。そのことにより、より多くの地域人材および地域資源を活用することができている。</p> <p>また、地域の事業所と連携した様々な就業体験を実施し、宍粟市千種市民局、商工会、ちくさええとこ協議会等が主催する活動やイベント等に参加することで、生徒の主体性や自ら問題を発見し、解決しようとする姿勢、解決する能力が身につけてきている。特に現在の在籍生徒が小学生時に経験している小学校との合同環境調査は、今年度で10回の実績となる。また、地域の方とのふれあい、協働する中で、自己有用感や自己効力感の醸成につながっている。</p>				
(主な事業経過)		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	5月23日	学校前圃場	小中高合同田植え	約70人	10人
	7月下旬	市内事業所	就業体験	14人	5人
	7月26日	千種小学校	妙見夏祭り	約1000人	15人
	8月3日	千種川全域	千種川水温調査	約80人	5人
	9日10日	エーガイヤ前	小高合同水生生物調査	約40人	5人
	9月19日	学校前圃場	小中高合同稲刈り	約70人	15人

	10月11日	商業教育フェア	お米の販売実習	約1000人	15人
	10月26日	千種町商店街	千種ふれあいフェスタ	約1000人	30人
	11月24日	道の駅 みなみ波賀	お米の販売実習	約300人	14人



5月23日 小中高合同田植え



7月26日 妙見夏まつり



7月28日 就業体験



10月11日 お米の販売実習

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	<p><b>【就業体験】</b> 山崎文化会館、宍粟消防署 スポニックパーカー宮、宍粟市役所、国見の森公園、道の駅みなみ波賀、エーガイヤちくさ、ちくさ図書館、自衛隊、くりのみ保育園、ヤマト運輸山崎営業所、森のお菓子工房 木いちご、公立宍粟総合病院、南光自然観察村</p> <p><b>【環境調査】</b> 千種川を守る会、千種小学校、千種中学校</p>
今後の展望	<p>地域の協力体制や園小中高連携事業を軸とし、今後も高校生が地域住民と一緒にあって千種町内だけでなく宍粟市全体を盛り上げていけるよう活動を継続させたい。収穫した米の活用方法等について検討し新たな実践を行い、千種町（宍粟市）のお米のブランド力を向上させたい。特に今年度挑戦した、栽培した米を用いたスイーツの研究を通して、米の栽培、調理加工、製品販売を含む6次産業化の取組を、今後は地域の方々や町内のこども園・小中学校とともに進めていきたい。今後も就業体験含め地域とともに教育活動を進めていきたい。</p>



	10月	姫路市 大手前公園	兵庫県商業教育協会主催 「商業教育フェア」に参加	8人	3人
	11月	たつの市	「たつの市民まつり」に参加	6人	3人
	11月	たつの市	「たつの市オータムフェスティバル」に参加	11人	8人
	11月より	たつの市	「道の駅しんぐう」にてレザー商品の取り扱い開始		
	11月より	本校	たつの市の特産品を用いた商品開発を実施		
	2月	たつの市	・全日制デザイン科主催 「町ぢゅう美術館」に参加 ・試作品の提供およびアンケート回収	8人	8人

写真



9月6日（土）店舗営業日



10月30日（木）上笹会館

写真



4月より たつのレザー製品 製作

写真



10月11日（土）商業教育フェア



11月より 商品開発 試食

写真



11月22日（土）・23日（日）  
オータムフェスティバル

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">協働の相手方</p>	<p><b>【学校名】</b>          兵庫県立龍野北高等学校総合デザイン科          兵庫県立龍野北高等学校総合福祉科          兵庫県立龍野北高等学校環境建設科          兵庫県立相生産業高等学校          兵庫県立上郡高等学校          兵庫県立香住高等学校          兵庫県立播磨特別支援学校          兵庫県立社高等学校          兵庫県立松陽高等学校          兵庫県立長田商業高等学校          兵庫県立佐用高等学校          兵庫県立農業高等学校          兵庫県立山崎高等学校</p> <p><b>【企業】</b>          キンキサイン株式会社          安富ゆず工房          赤穂精華園          菓子の樹          菓子工房メイプル</p> <p><b>【その他】</b>          NPO法人「しんぐうNEXT」          龍野ライオンズクラブ          たつの市下川原商店街          ホテル北野プラザ六甲荘          道の駅しんぐう</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸学院大学人文学部に依頼し、レザー案を挙げて頂いているので、新たなレザー製品を製作していく。</li> <li>・菓子工房メイプル様のご協力により、たつの市の特産品を用いた商品開発に取り組んでおり、商品化を進めていく。</li> <li>・レザー製品を販売する場所を広げていく。(たつの市以外でも依頼をする)</li> <li>・積極的にイベントに参加する</li> <li>・商品の仕入れ先を増やす。(全国ご当地物産展など)</li> </ul>

## 事業実施報告書

事業名： 地域をつなぐ相産定時制

団体名： &lt;兵庫県立相産産業高等学校 定時制課程&gt;

所在：相生市千尋町10番50号

代表：校長 西田 拓巳

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくりを通じた交流の機会を増やすことで、人口が減少傾向にある地域と学校とのつながりをより強固にする。</li> <li>工業科目を学ぶ生徒の特技を活かしたものづくりを通して地域に貢献する。</li> </ul>				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校が実施する学校行事（陶芸教室・防災学習会・課題研究成果発表会）を地域住民も参加できる内容で実施した。</li> <li>ものづくりの楽しさを実感してもらう「こども工作教室」を計画・実施した。</li> <li>安全標識「飛び出し坊や」のバリエーションを増やして製作し、相生市役所危機管理課と連携し、設置区域を拡大した。</li> </ul>				
地域	相生市 相生市千尋町自治会				
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事に地域住民にも参加してもらい、また生徒が地域の行事（相生市もみじまつり）で工作教室をすることで、地域住民と生徒・教職員との交流の機会が増え、学校と地域、さらに住民同士のつながりも深まった。</li> <li>千尋町連合自治会と備前焼陶芸教室・防災学習会を実施し、さらに交流を深めることができた。</li> <li>生徒の活動や製作物が地域に役立つとともに、生徒が達成感を得ることができた。</li> </ul>				
事業経過		場 所	事 業 内 容	参加者数	スタッフ数
	5月	相産産業高校	・千尋町自治会役員との連絡、意見交換（今年度の計画など）	4	4
	6月・7月	相産産業高校	・安全標識の製作	45	15
	7月10日		・こども工作教室の準備		
	9月2日		・地域清掃活動（千尋町） ・防災教育出前講座の開催		
	11月9日	相生市もみじまつり会場	・2025 羅漢の里もみじまつり 来場者対象のこども工作教室の実施	100	9
	11月10日 11月11日	相産産業高校	・備前焼陶芸教室（地域住民と備前焼の陶芸教室の実施）	19	15
	11月27日	相生市役所	・安全標識を相生市危機管理課 および学校近隣の千尋町自治会 に寄贈、設置	8	4
1月20日	相産産業高校	・地域に公開した課題研究成果発表会を実施（1年間の取組を発表）	51	15	

写真 令和7年5月～令和8年1月  
安全標識製作、相生市へ寄贈・設置



写真 令和7年12月11日  
安全標識（神戸新聞記事）



写真 令和7年11月9日  
相生もみじまつりでの工作教室



写真 令和7年11月10日・11日  
備前焼陶芸教室で地域住民と交流



写真 令和7年9月2日  
地域と連携した防災訓練・学習会



写真 令和8年1月20日  
地域に公開した課題研究成果発表会



協働の相手方	相生市千尋町連合自治会 相生市
今後の展望	相生市「2025 羅漢の里もみじまつり」では、工作教室が来場者に好評であった。安全標識は、「飛び出し坊や」を製作した。相生市役所危機管理課を通して、市内の自治会へ寄贈・設置し、有効活用してもらうことになった。神戸新聞にも掲載された。工業科目を学ぶ本校生が特技を活かしたものづくりで地域に貢献することを継続しながら、学校と地域のつながりを大切にし、より一層地域交流や連携を強化していきたい。



令和7年度地域づくり活動応援事業（高校生枠）

実績報告集

（令和8年2月現在）

発行 兵庫県西播磨県民局

〒678-1205 赤穂郡上郡町光都 2-25